

# 海岸漂着ごみモニタリング の整理と進め方



鹿児島大学水産学部環境情報科学講座  
クリーンアップかごしま事務局  
藤枝 繁

# 1. 海岸漂着ごみモニタリングの必要性

## 背景

- 法の空白
- 多種多様なごみの混在
- 適切な回収・処分方法(技術)が無い
- 危険物大量漂着時の危機管理体制がない
- 発生域と被害域(漂着域)が異なる
- 被害地の多くが離島や過疎地
- 国際的問題
- 目に見えるような国民的被害ではない
- 対策の効果の検証が無い
- 海岸ごみ監視体制の不備  
(新たなゴミの発生がわからない)

## 検討課題

- 法の整備
- 発生域における排出抑制
- 危険物大量漂着時の危機管理体制の構築
- 国際的問題としての対応
- 国民的被害としての認識強化
- 離島や過疎化での処理策
- 処分・処理技術の開発
- 監視体制の構築
- 対策の効果の検証

## モニタリング

- 総量
- 構成割合
- 増減
- 排出起源





## 2. 国内における海岸漂着ごみモニタリング手法の分類整理

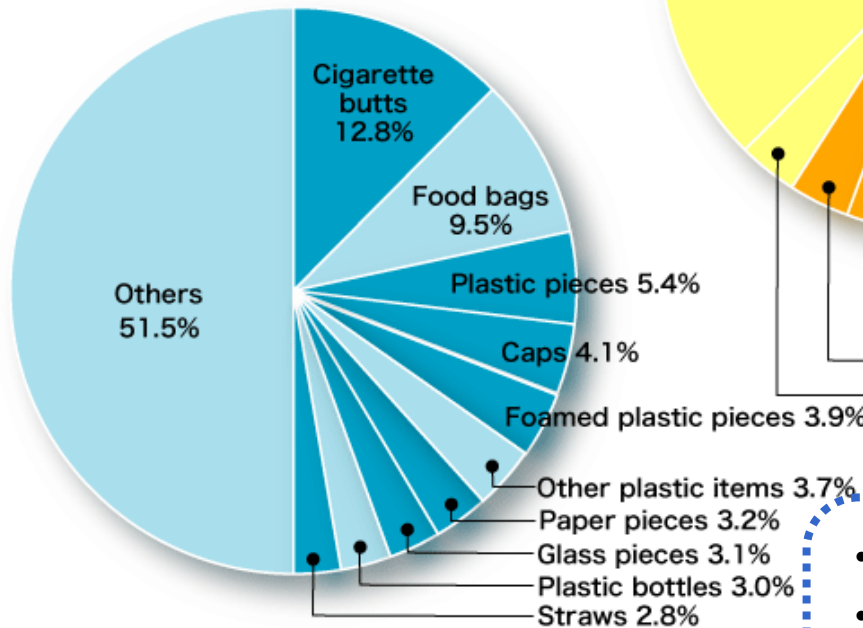
分類	実施団体（名称）	調査範囲	情報	特徴	
<b>A 総量推定型</b>					
	国交省河川局（水辺のごみ指標評価法）	全国	写真	簡易，特定時期，指標評価，収集調査なし，ゴミマップ	
<b>B 構成割合型</b>					
B1 未定点型	JEAN（国際海岸クリーンアップ） 海上保安庁（漂着ゴミ分類調査）	全国	個数	全量収集調査，ICCカード（国際的），年一回秋，不定点，市民参加・市民運営	
	荒川クリーンエイドF（荒川クリーンエイド）	荒川			全量収集調査，簡易シート，年一回秋，市民参加・市民運営
	建設省（H12海岸ゴミ実態調査）	全国			
	香川県（さぬき瀬戸クリーンリレー）	香川県	個数，素材別重量，製造国	全量収集調査，自然物，ゴミマップ	
	MB21（海岸散乱ゴミ調査）	全国			
B2a 定点型	NPEC（海辺の漂着物調査）	日本海	個数，素材別重量，製造国	全量収集調査，旧ICC手法，年一回（季節限定），区間内収集，自然物	
B2b 微小物型	NPEC（海辺の埋没物調査）	日本海	密度	微小物，B2aに併設	
B3 単独型	東山高校	琴引浜	個数，製造国	単独データ，定点定期調査	
	鹿児島大学 小中高総合学習の時間	吹上浜			
<b>C 特定アイテム型</b>					
C1 広域型	ライタープロジェクト	全国	製造国	アイテム内情報	
	国立医薬品食品衛生研究所（レジンペレット）	東アジア	密度，吸着物		
C2 特定地域型	兼広研究室（レジンペレット）	東京湾	密度，吸着物	対策対象アイテムに限定	
	藤枝研究室（EPS破片）	広島湾，鹿児島湾	密度	微小物	
	藤枝研究室（EPSフロート）	広島湾，鹿児島湾	個数		

注) JEAN, クリーンアップ全国事務局; MB21, (財)海と渚環境美化推進機構; NPEC, 環日本海環境協力センター; EPS, 発泡スチロール

# B1: 構成割合型調査 (国際海岸クリーンアップ)



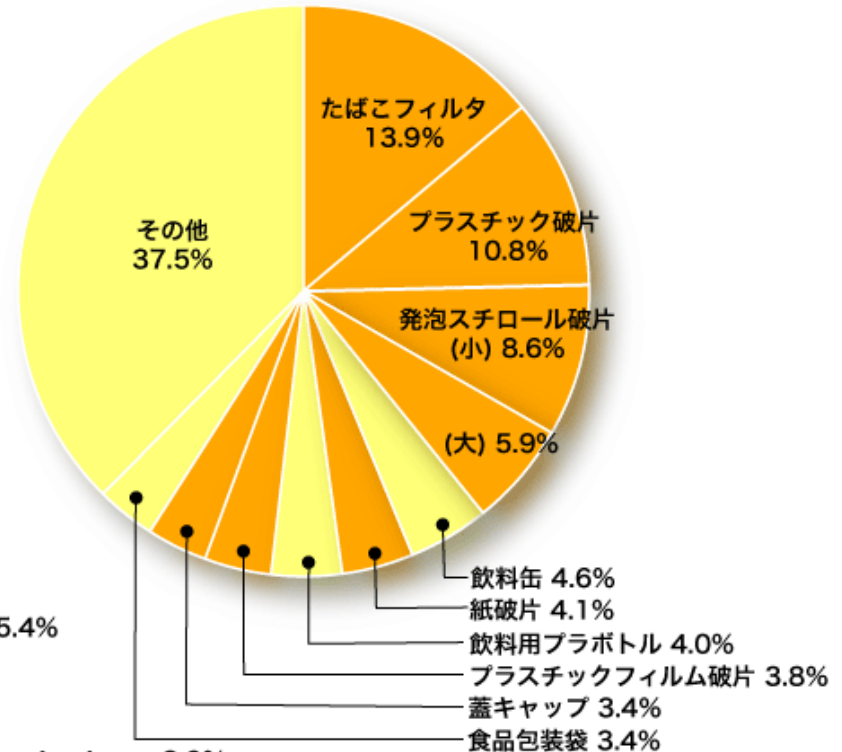
2000 International Coastal Cleanup



## 対策

- 回収処分の方策検討
- 回収ごみの処理技術開発

2001 International Coastal Cleanup in Japan



## 目的

- 詳細構成割合の把握 (世界共通データ)
- 新規漂着ごみの監視
- 地域特性の把握
- 経年変化の把握 (過去との比較)
- 対策効果の検証

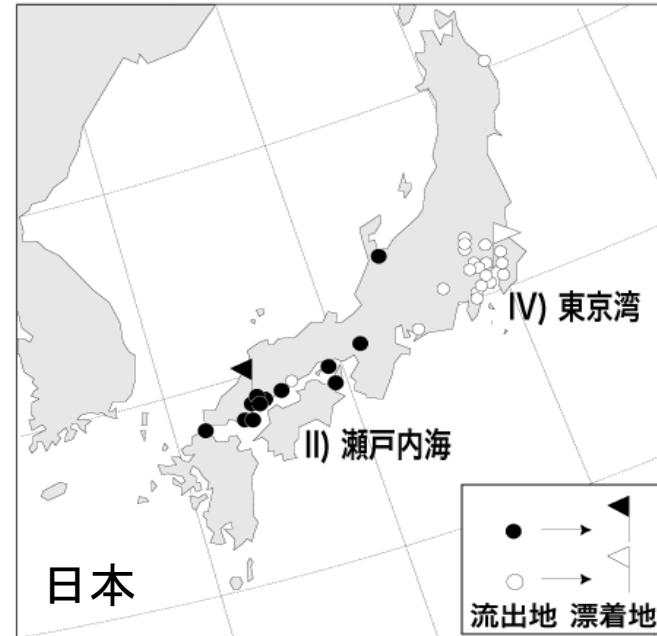
# C1: 特定アイテム広域型調査

## 目的

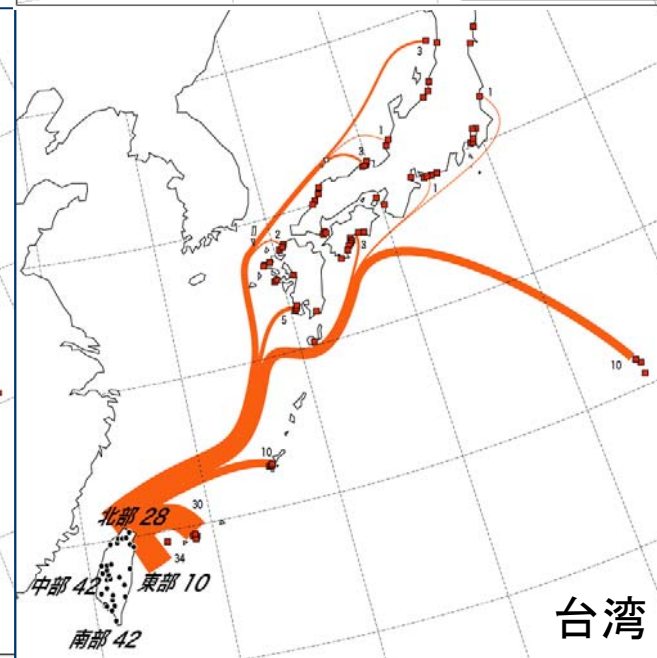
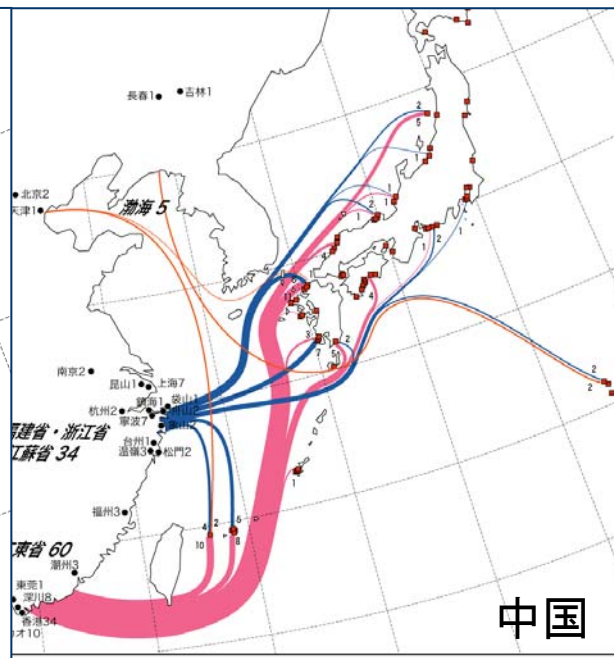
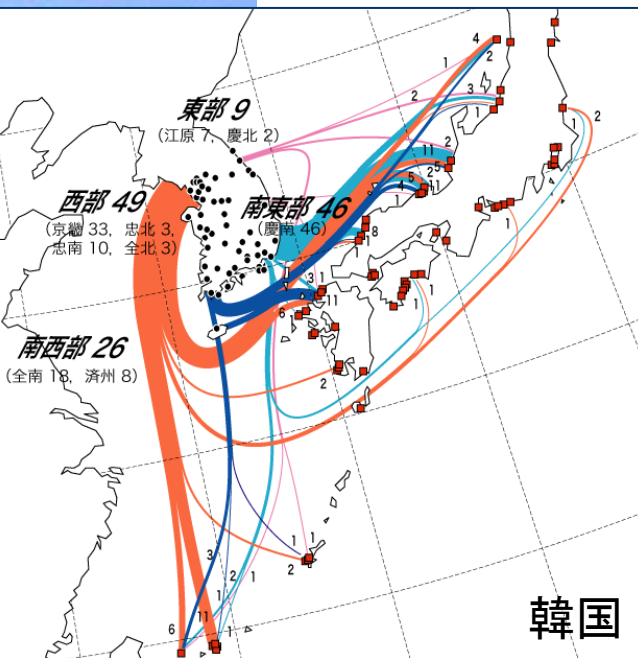
- 国際的環境汚染問題としての把握
- 国内・国外流出地域の解明
- 流出地域と被害地域の関係の把握

## 対策

- 流出地域との発生抑制策の交渉
- 海岸ごみの監視
- 対策の効果の検証



使い捨てライターを使った流出地と漂着地域の関係





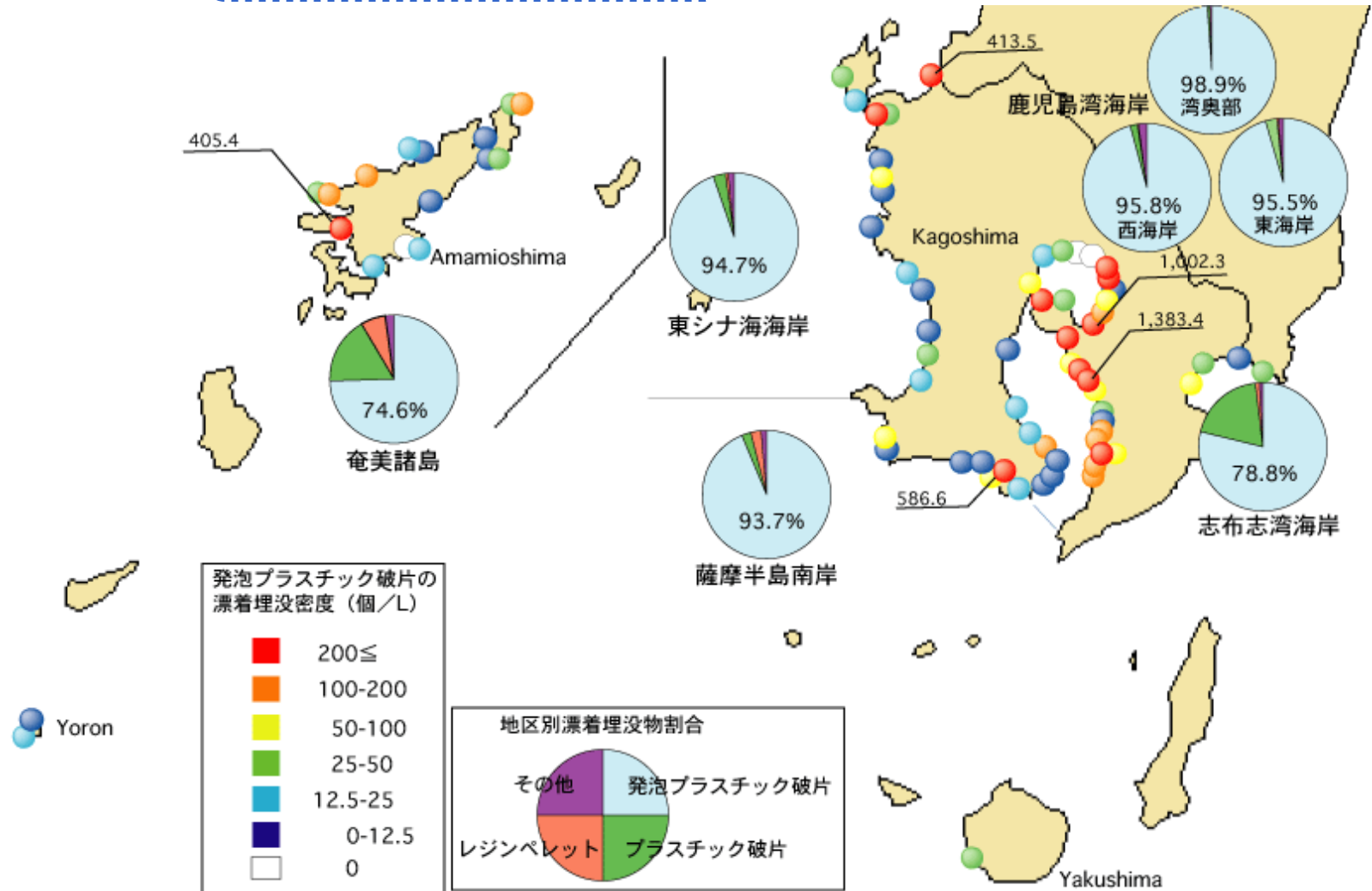
# C2: 特定アイテム特定地域型調査

## 目的

- 高密度集積地域の把握
- 面での把握

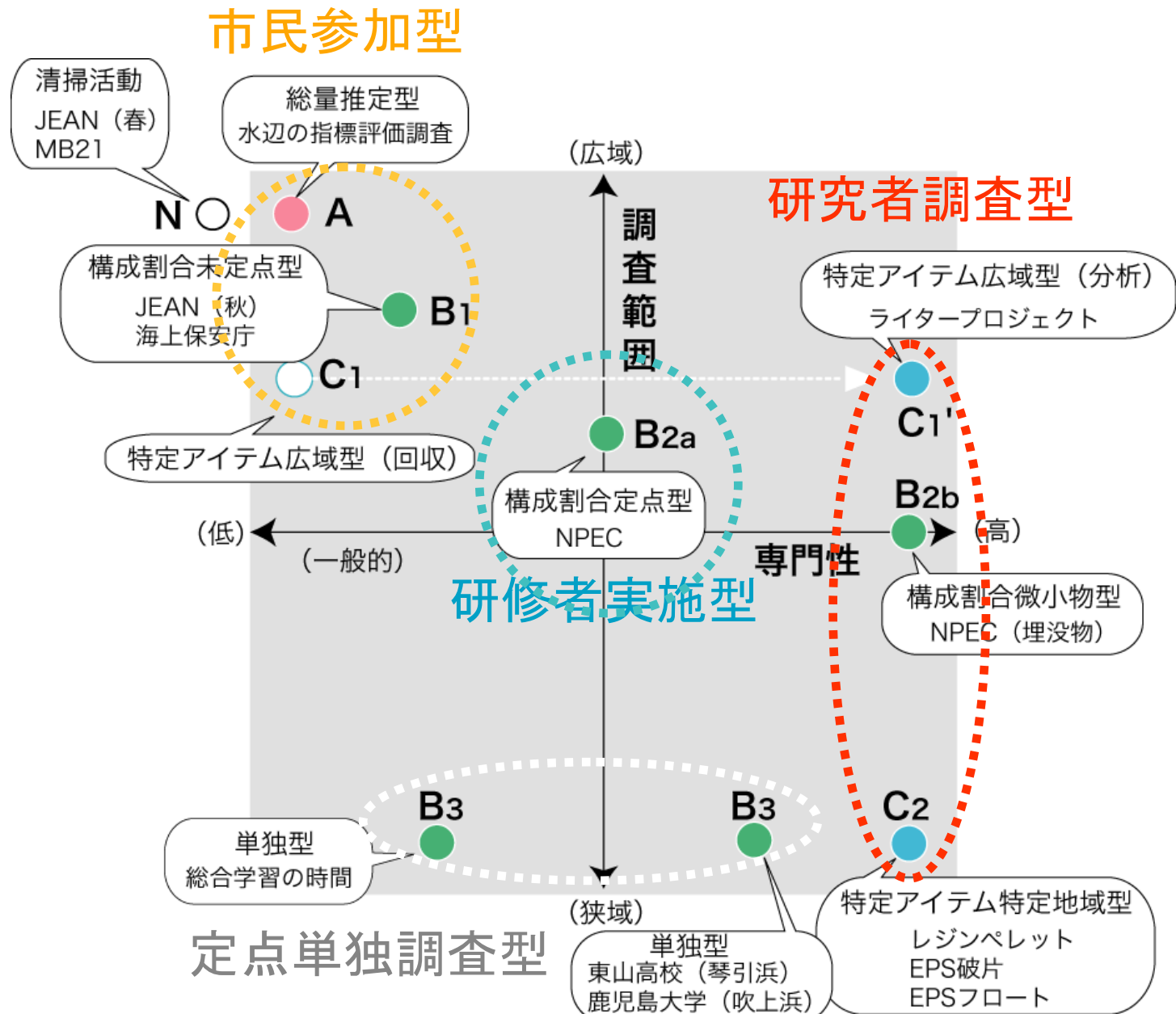
## 対策

- 対策域の検討
- 発生源の検討

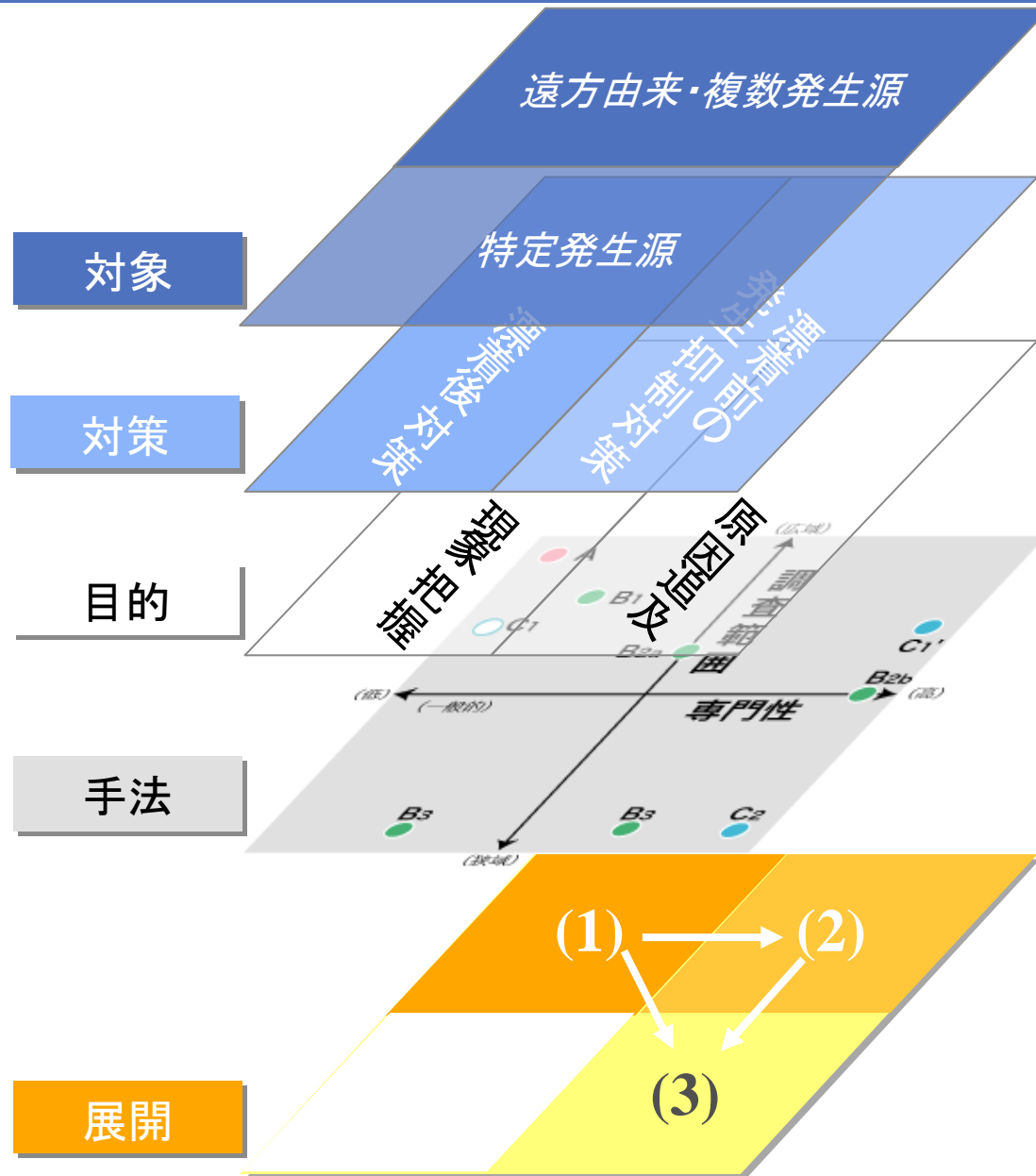


九州南部海岸における発泡スチロール破片の漂着密度と漂着割合

### 3. モニタリング手法の実施者による位置付け

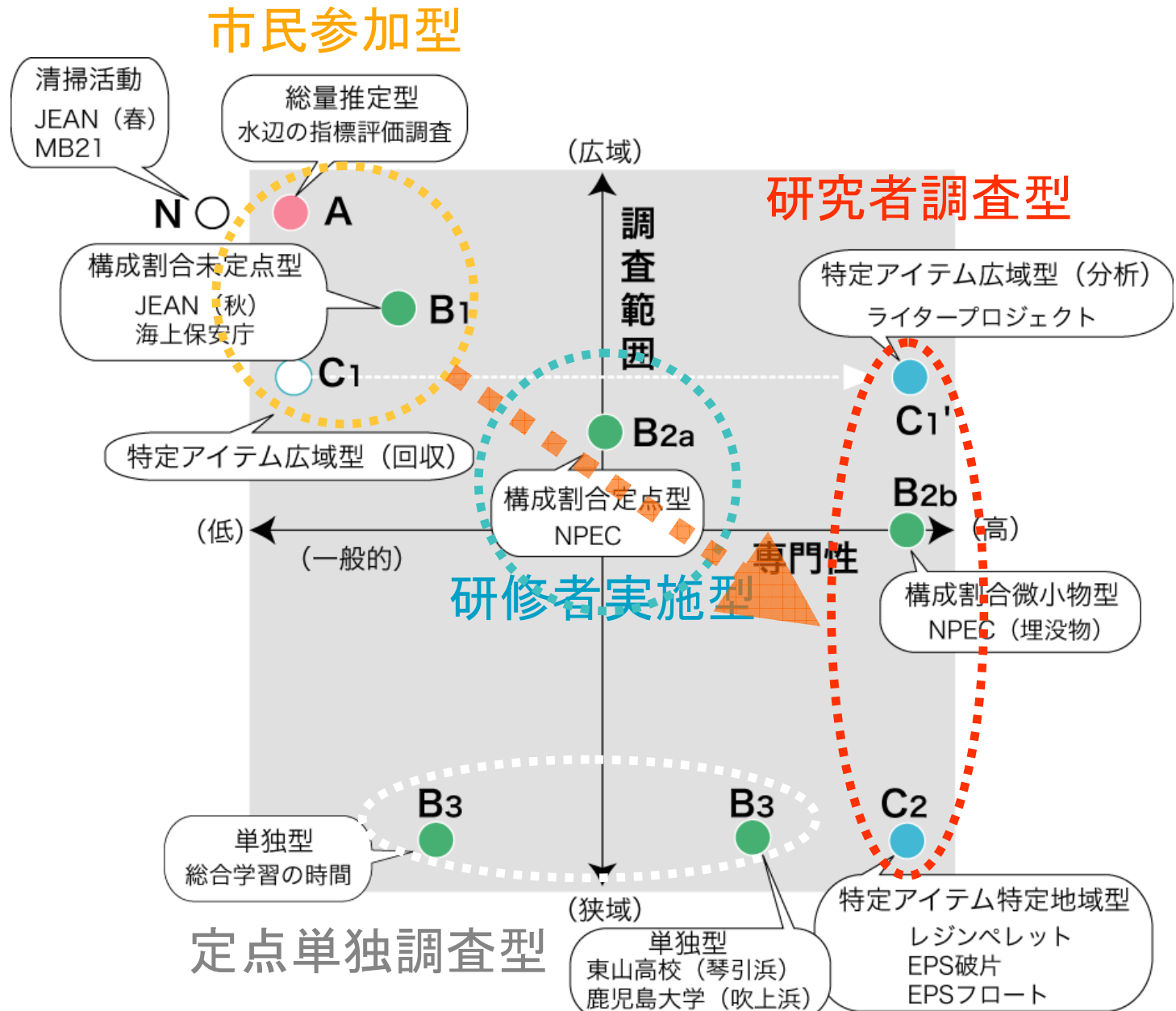


# 4.海岸漂着ごみモニタリングの目的と展開方向





# 4.海岸漂着ごみモニタリングの展開方向



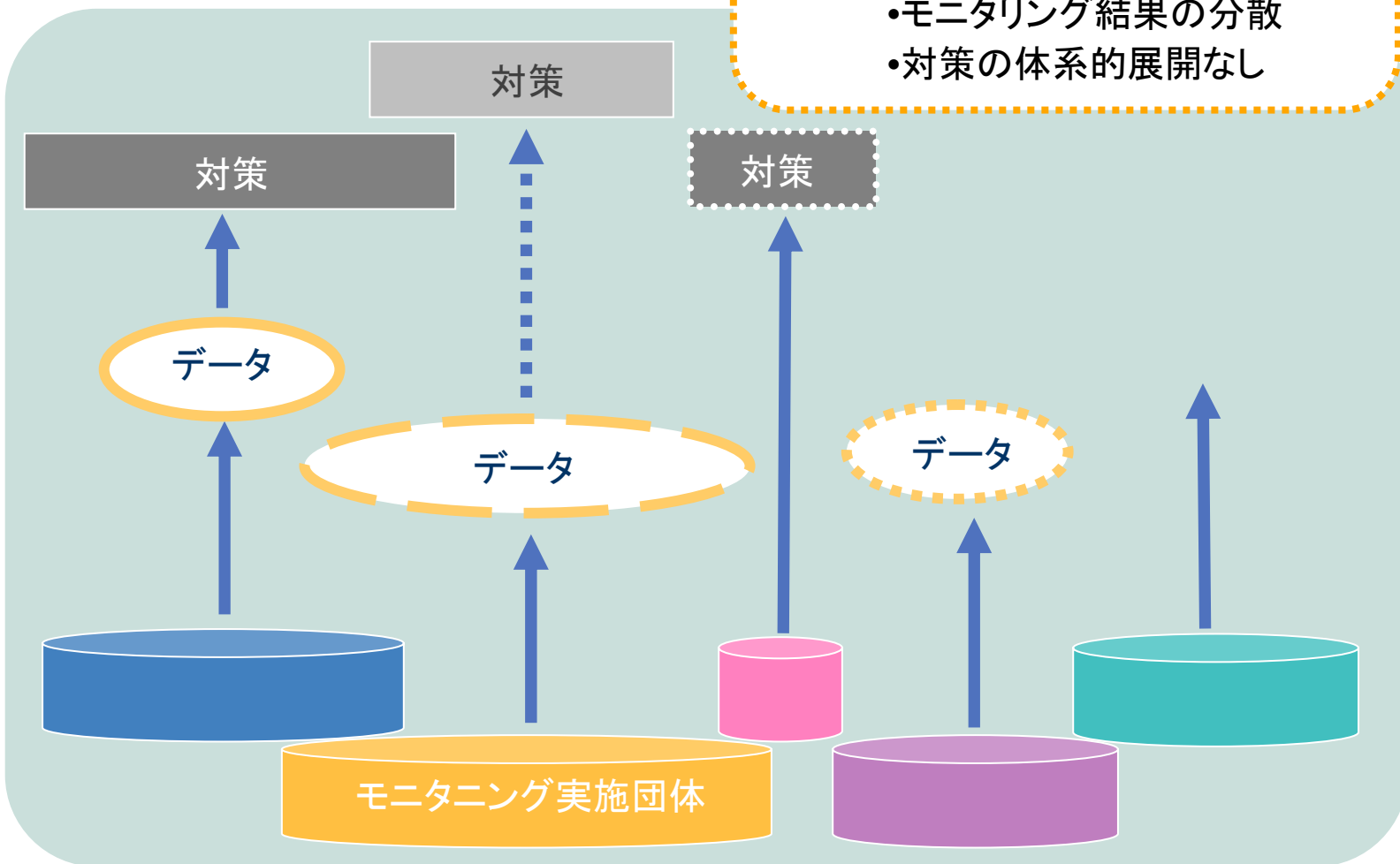
# 海洋ごみ対策に関わるこれまでの取り組み

これまでの  
展開

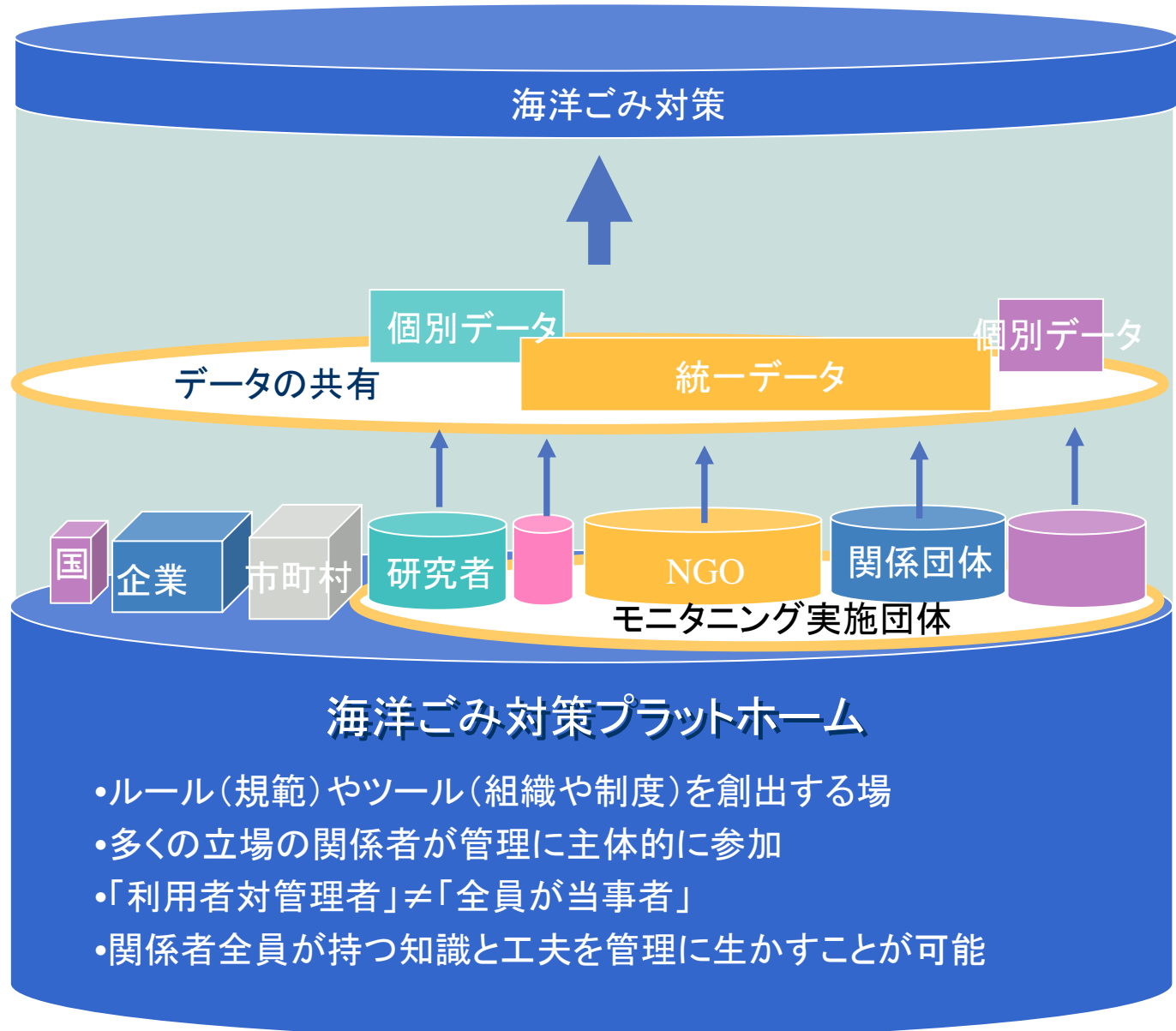
- 様々な主体
- 個別的な活動

結果

- 地球規模の環境問題であることの認知性向上
- 大きな枠組みでの提言や対策なし
- モニタリング結果の分散
- 対策の体系的展開なし



## 5. 今後の取り組み 海洋ごみ対策プラットフォームの構築





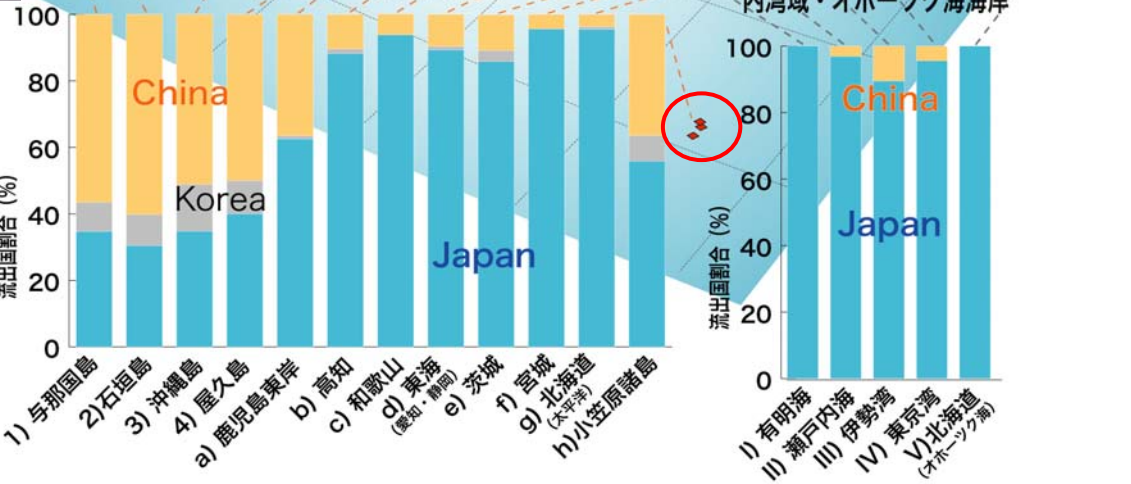
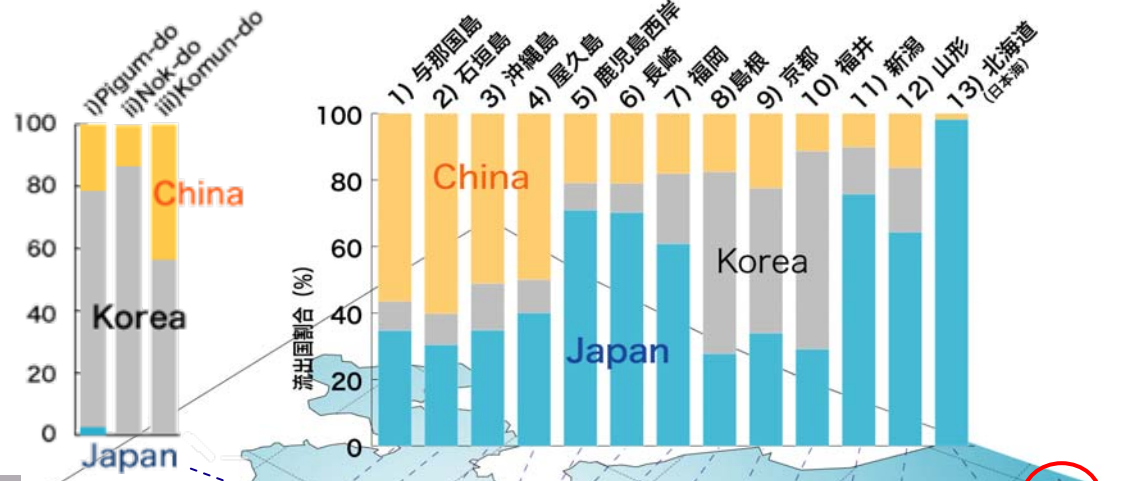
# 5. 今後の取り組み 共同モニタリングの実施

○ モニタリングサイト



Japan Korea Taiwan China Hong Kong

23都道府県, 延べ120海岸から回収された使い捨てライター(6,609本)の地区別消費製造国割合  
(ライタープロジェクト04結果より)



## 6. 海岸漂着ごみモニタリング進め方のまとめ

### 海岸漂着ごみモニタリングの目的

海岸漂着ごみの総量，構成割合，増減，排出起源の解明

### 解決策の検討

1. 排出抑制，発生源対策の検討
2. 散乱ごみ回収処分の方策の検討
3. 回収ごみの処理技術開発
4. 海岸漂着ごみの監視
5. 対策の効果の検証

### 展開

- I. 海洋ごみ対策プラットフォームの構築
- II. データ(高品位)の共有化
- III. 市民参加型活動の推進
- IV. 共同モニタリングの実施

